

●シリーズ●わが町の文化財へ103

世羅町重要文化財 井原八幡神社棟札(附六枚)

昭和59年5月15日指定

井原八幡神社の歴史を物語る室町時代の棟札です。

棟札には、社の再興が暦応2年(一三三九)にまでさかのぼることが記され、明応2年(一四九三)の御宝殿造立の棟札には、大檀那藤原朝臣職綱(鳶ヶ丸城主下見氏)の名が、天文10年(一五四一)の棟札には、尾首城主湯浅氏の名があります。そして慶長20年(二六一五)の棟札には丸山対馬守吉次が、元和5年(一六一九)の棟札には、貝氏などの名が記されていて、地域の歴史を知る上での貴重な資料となっています。

【棟札とは】

棟上げの時に施主や大工の名前、施工年月日などを記す(工事の由緒書き)木札のことをいいます。工事の安全と、将来そこに生活する人々の幸福や、建物の末永い存続を祈願するために行う「上棟式」において、屋根裏にある棟木に打ち付けられます。



●シリーズ●わが町の文化財へ104

世羅町重要文化財 木造仁王像立像

昭和59年5月15日指定

仁王像は、今高野山の総門(広島県重要文化財)内に安置されています。造像時期は明確ではありませんが、総門に残る棟札から、文政11年(一八二八)に彩色補修を行ったことがわかっています。寄木造で、玉眼彩色。像高1.9m。造形は写実的で、人の体の造り動きに伴う筋肉の動きなどが正確に表現されています。

町内では伊尾下津屋の仁王像とともに、木造彫刻として貴重です。なお本像は、旧世羅郡吉原村(現東広島市豊栄町)にあった光福寺から移され祀られたとの伝承があります。

また、弘治2年(一五五六)「福智院法印覚弁請取状」(吉岡雅晴家文書)によると、今高野山福智院の住職僧覚弁が、真瀬喜右衛門尉に今高野山再興のための寄附金の請取状を出しています。書体など一部検討を要する点が見られますが、今高野山の復興を示唆するきわめて重要な史料です。

